

機械器具 51 医療用嘴管及び体液誘導管  
高度管理医療機器 バルーン拡張式血管形成術用カテーテル 17184014  
カネカ PTA カテーテル PE-R2

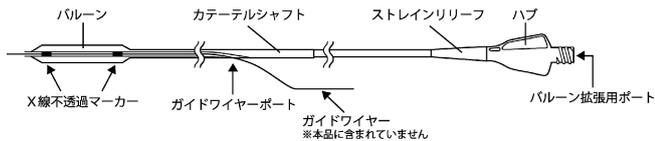
再使用禁止

**\*\*【禁忌・禁止】**  
使用方法  
・再使用、再滅菌禁止

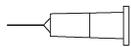
**\*\*【形状・構造及び原理等】**

1. 形状、構造

<カテーテル構造図(代表図)>



<付属品(フラッシュ用接続針)の構造図(代表図)>



2. 主要部位の原材料

(1) シャフト: ナイロン系樹脂

バルーン: ナイロン系樹脂

ハブ: ポリカーボネート

(2) フラッシュ用接続針: ポリプロピレン、ステンレス鋼

3. バルーンの推奨拡張圧 (NP)

0.8MPa

4. バルーンの最大拡張圧 (RBP)

1.4MPa

5. 最大ガイドワイヤー径

0.014 インチ (0.36mm)

6. 原理

本品はバルーンの膨らみをコントロールすることで、狭窄性血管を拡張する。血管拡張時に切開を伴わない。

**【使用目的又は効果】**

本品は、経皮的血管形成術 (PTA) における、冠血管及び頭蓋内の脳血管を除く狭窄性血管 (動脈、静脈又はシャント) の拡張又はステント留置時の後拡張に使用する。

**【使用方法等】**

**\*\*1. 術前準備**

本品は、必ずガイドワイヤーカテーテル又はシースイントロドューサー、及びガイドワイヤー (いずれも本品に含まれていない) を併用すること。

(1) 使用前に、X線透視下で狭窄部近傍の血管径を確認し、適切なバルーン径を有するものを選択すること。血管径の異なる箇所がある場合は、最も小さい血管径に合うサイズを選択すること。

(2) 本品を無菌的に滅菌包装から取り出し、保護部材を取り外す。

(3) 以下の手順で、生理食塩液と1:1で希釈した造影剤 (以下、拡張液という) で置換し、バルーン及びバルーン拡張用ルーメンのエアを除去する。

① 拡張液を注入した拡張用デバイス (本品には含まれていない) をバルーン拡張用ポートに接続する。

② 拡張用デバイスで約10秒間陰圧をかけた後、カテーテルシャフトの先端を下に向け、陰圧をゆっくりと解除してバルーン及びバルーン拡張用ルーメンを拡張液で満たし、エアを除去する。

③ バルーンとバルーン拡張用ルーメン内にエアが認められる場合は、エアが抜けるまで②の操作を繰り返す。

④ バルーン拡張用ポートから拡張用デバイスを取り外し、拡張用デバイス内のエアを除去する。

⑤ 再度、バルーン拡張用ポートに拡張用デバイスを取り付けて陰圧を保持し、拡張用デバイス内にエアが戻らないことを確認した後、陰圧を解除する。

(4) フラッシュ用接続針を用い、ヘパリン加生理食塩液でガイドワイヤールーメンをフラッシュし、同液で満たす。

(5) カテーテル全体を生理食塩液に浸す。

**\*\*2. 病変部位への挿入及び拡張**

本品を使用するにあたり、併用するガイドワイヤーカテーテル又はシースイントロドューサー、及びガイドワイヤーが適合する事を確認する。

(1) 併用するガイドワイヤーカテーテル又はシースイントロドューサーを病変部付近まで進めて留置する。

(2) ガイドワイヤーカテーテルを使用する場合は、接続した止血弁を、血液が漏れない程度に緩める。

(3) バルーンを完全に収縮させた状態で、病変部位の末梢まで進めたガイドワイヤーに沿わせ、本品をガイドワイヤーカテーテル又はシースイントロドューサー内にゆっくりと挿入し、X線透視下で本品のX線不透過マーカーが目的の位置に到達するまで前進させる。

(4) X線透視下でX線不透過マーカーを確認して、拡張部位の位置を決める。

(5) 拡張圧を確認しながら目的の直径となるまでバルーンをゆっくりと拡張し、狭窄部位を拡張する。

(6) 対象血管領域の拡張状態を確認する。

(7) 本品に陰圧をかけ、バルーンを完全に収縮させる。

**\*\*3. 抜去・交換**

(1) ガイドワイヤーカテーテルを使用している場合は止血弁を緩める。

(2) ガイドワイヤーと止血弁を片手でつかみ、ガイドワイヤーが病変部の位置から動かないようにする。もう一方の手で本品の手元部をつかみ、ガイドワイヤーカテーテル又はシースイントロドューサーから本品のガイドワイヤーポートが出てくるまでゆっくりと引き出す。この時、X線透視下でガイドワイヤーの位置を監視しておく。

(3) 病変部を通過しているガイドワイヤーの位置を保持しながら、本品をガイドワイヤーから慎重に引き抜く。

(4) ガイドワイヤーカテーテルを使用している場合は止血弁を閉じる。

(5) なお、別のバルーンカテーテルに交換する際は、その添付文書に従って準備し、使用する。

**【使用方法等に関連する使用上の注意】**

1. バルーンから保護チューブ等の保護部材を取り外すときは、慎重にゆっくり取り外すこと。[バルーン、カテーテルシャフト等の損傷によりバルーンの拡張、収縮等の操作が不可能又は困難となる可能性がある。]

2. バルーンは拡張液を使用し、エア及びその他の気体でバルーンを拡張しないこと。〔バルーンが破裂した場合、血管の損傷又は塞栓を引き起こす恐れがある。〕
3. 使用前に、バルーン及びバルーン拡張用ルーメンのエアを完全に除去し、拡張液で置換すること。〔エアの除去が不十分な場合、X線透視下でバルーンは拡張状態を観察出来ない場合がある。〕
- \*\*4. 最大拡張圧 (RBP) を超えた圧力でバルーンを拡張しないこと。石灰化病変等の重度病変の場合、血管が十分拡張出来ない可能性があるが、その場合でも最大拡張圧以上の圧を掛けないこと。〔バルーンが破裂し、破断片が体内に残留する恐れがある。〕
5. ステントへの挿入・抜去、又はステント内でのバルーン拡張操作は、X線透視下で慎重に行うこと。〔本品の破損、血管の損傷等を生じる可能性がある。〕

## 【使用上の注意】

### 〔重要な基本的注意〕

- \*\*1. 経皮的血管形成術は、血管破裂、血管解離を伴う急性血管閉塞のリスクが伴うため、患者への適用は慎重に行うこと。また、デブリス及び血栓等の飛散により末梢血管閉塞及び穿通枝障害等の有害事象を発生する可能性がある場合には、末梢保護等の適切な措置を行った上で使用すること。
- \*\*2. 以下に従って、バルーンサイズ（バルーン径およびバルーン長）を選択し、病変部の拡張時間と拡張回数は、医師の知見に基づいて決定し、十分に拡張すること。
  - \*\* (1) 拡張するバルーンは、狭窄部位の近位側及び遠位側の目的とする血管径を超えて拡張してはならない。血管径の異なる箇所がある場合は、最も小さい血管径を超えて拡張してはならない。〔血管の損傷及び破裂の恐れがある。〕
  - \*\* (2) 拡張するバルーンは、目的とする血管の狭窄部の長さを超えてはならない。〔血管破裂、血管解離を伴う急性血管閉塞、デブリス飛散による末梢血管閉塞、穿通枝傷害等の恐れがある。〕
3. 本品は、緊急の外科的手術を直ちに実施し得る体制の下で使用すること。
- \*\*4. 本品を血管内に挿入する際には、適切な抗凝固療法を行うこと。〔抗凝固療法をしない場合、血栓による血管閉塞から重大な有害事象に至る恐れがある。〕
5. カテーテルシャフトが折れ曲がったり、捻れている状態での加圧操作又はガイドワイヤーを進める操作は、絶対に行わないこと。
- \*\*6. 血管内で操作する際は、本品のX線不透過マーカーを参考に、X線透視下又はDSAモニター下で、本品の先端の位置や動き、バルーンは拡張状態を確認しながら、注意深く行うこと。少しでも抵抗を感じたり、本品を操作しても位置が変わらない場合、或いはガイドワイヤーの先端部に折れ曲がりが生じた場合等、異常に気付いた時は、すぐに操作を中止し、ガイドワイヤーと一緒にゆっくりと抜去すること。
- \*\*7. 本品の挿入・抜去やバルーンは拡張・収縮は急激に行わないこと。〔バルーンは破裂等の本品の破損、それに伴う破断片の体内遺残、血管の損傷を引き起こす恐れがある。〕
8. バルーンは拡張に、インジェクター（自動注入装置）を使用しないこと。
- \*\*9. 本品の抜去、移動は、バルーンが完全にデフレーションしていることを確認した上で行うこと。〔拡張した状態で動かすと、バルーン及びカテーテルシャフトを破損する恐れがある。〕
10. 本品の抜去時に抵抗を感じた場合は、ガイディングカテーテル又はシースイントロドューサーとともにシステム全体を慎重かつゆっくりと抜去すること。
- \*\*11. 本品の操作中に強い抵抗等の異常を感じた場合は、直ちに操作を中止し、その原因を確認して適切な処置を講ずること。〔無

理な挿入や抜去等の操作を継続すると、本品の破損、血管の損傷等を引き起こす恐れがある。〕

12. 本品の使用中は併用するガイディングカテーテル又はシースイントロドューサーの先端を臨牀的に問題のない範囲でできるだけ病変部位の近傍まで進めて使用すること。〔カテーテルシャフトのキックや破断により、血管を損傷する恐れがある。〕

### 【不具合・有害事象】

本品の使用に伴い、本品に以下の不具合が発生する可能性がある。

1. 重大な不具合
  - ・カテーテルの破断及びキック
  - ・カテーテルの抜去困難
  - ・バルーンは破裂
  - ・バルーンは拡張及び収縮不良
- \*\*2. その他の不具合
  - ・造影剤の漏れ

本品の使用に伴い、患者に以下の有害事象が発生する可能性がある。

1. 重大な有害事象
  - ・死亡
  - ・脳梗塞、脳卒中及び脳虚血
  - ・一過性脳虚血
  - ・血栓等による塞栓症
  - ・血管破裂・穿通・攣縮
  - ・血管解離
  - ・仮性動脈瘤形成
- \*\* 再狭窄
  - ・局所的内出血又は血腫
  - ・局所又は全身の感染症
  - ・動静脈瘻
  - ・造影剤に対するアレルギー反応
  - ・疼痛又は圧痛

### \*\* 【妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用】

本品はX線透視下で使用するため、妊婦又は妊娠している可能性のある患者に対しては治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ使用すること。

### 【保管方法及び有効期間等】

#### 【保管の条件】

水濡れ及び直射日光を避け、涼しく乾燥した場所で保管すること。

#### 【有効期間】

外箱に使用期限を記載。〔自己認証（当社データ）による。〕

### \*\* 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

#### 【製造販売元】

名 称：株式会社カナカ  
電話番号：06-6226-5256

#### 【販売元の氏名又は名称等】

名 称：株式会社カナカメディックス